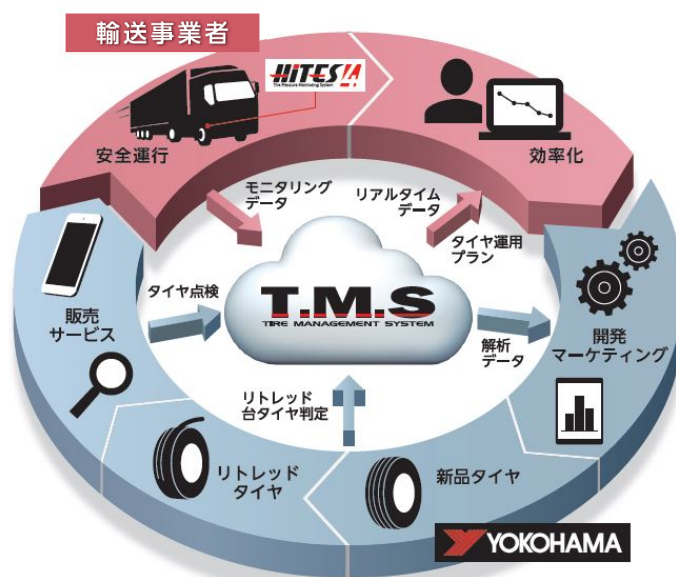


2020年9月1日

日本ユニシス 横浜ゴムに次世代タイヤマネジメントシステム「T.M.S」を提供 ～ 車両情報やタイヤ点検情報などのデータを解析し、 輸送事業者の安全運行やコスト削減を実現 ～

日本ユニシスは、横浜ゴムに次世代タイヤマネジメントシステム「T.M.S (ティーエムエス)」の提供を開始しました。

「T.M.S」は、タイヤ内部の空気圧と温度を走行中に確認できるタイヤモニタリングシステム「HITES4 (ハイテスフォー)」と連携し、リアルタイムに車両情報、装着タイヤ情報、タイヤ点検情報、空気圧や温度情報などを解析するサービスです。これらのデータを活用することで、タイヤ点検作業の省力化や、タイヤ交換時期や運用プランの最適な提案が可能になり、輸送事業者の安全運行やコスト削減支援を実現します。



【背景】

昨今、少子高齢化による労働人口減少にともない、タイヤ点検作業の省力化が進む一方で、点検結果報告作業のスピードが求められています。自動車業界が「100年に一度の大変革期時代」を迎えるにあたり、タイヤ業界では、タイヤのコンディション管理やタイヤ故障を未然に防ぐ故障予測機能へのニーズが高まっています。

【概要】

「T.M.S」は、ヨコハマタイヤ[※]のセールス担当者が輸送事業者を訪問する際に取得する、車両基本情報、装着タイヤ情報、タイヤ点検結果などをクラウド上で管理し、蓄積した「情報」を「データ」として活用できるシステムです。迅速なタイヤ点検報告書の作成や、タイヤ交換時期や最適な商品、運用プランをタイムリーに提案することが可能となります。これにより、輸送事業者の安全運行とコスト削減を実現します。[※]横浜ゴムが展開するタイヤ事業ブランド



提供する機能は以下の通りです。

- タイヤ点検データ、ローテーション、履き替えなどタイヤメンテナンス情報の入力
- HiTES4 との連携によるタイヤ空気圧、温度情報の自動入力
- デプスゲージ（タイヤ溝情報測定機器）との連携によるタイヤの溝深さ情報の自動入力
- 車両位置、走行データの管理
- タイヤ点検結果帳票出力機能
- タイヤ点検データの活用によるタイヤの摩耗予測
- GPS 機能を活用した登録法人選択機能
- カメラ撮影による点検対象車両のナンバープレート自動認識

【今後の取り組み】

日本ユニシスは、空気圧や温度データといったタイヤ内部データの活用をさらに進め、タイヤ故障を未然に防ぐため、タイヤの骨格部分となるケーシング寿命予測機能を提供していく予定です。今後も日本ユニシスは、横浜ゴムのタイヤマネジメントシステム「T.M.S」を通じて、輸送事業者の安全運行とコスト削減に貢献していきます。

以 上

■関連リンク：

「横浜ゴム株式会社」 <https://www.y-yokohama.com/release/?id=3444>

「ヨコハマタイヤ公式ホームページ」 <https://www.y-yokohama.com/product/tire>

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/